

学会参加報告

第 38 回 NPO 法人日本脳神経血管内治療学会学術集会 (JSNET)

柏葉脳神経外科病院 先端医療研究センター 平野 透

柏葉脳神経外科病院の平野です。北海道での新型コロナウイルス感染症は第 8 波に入り、まだまだ多くの病院で勤務されている皆様は大変な状況下で日々ご活躍されていると思います。この文章がメルマガに掲載される頃には感染者数が 8 波前位まで治ってくれると良いな～と願いつつ、学会の参加報告を書かせて頂きます。

第 38 回の JSNET が令和 4 年 11 月 10 日～12 日の 3 日間にわたり、大阪国際会議場で開催されました。大阪国際会議場は日本放射線技術学会でも 3 年前に秋季大会が開催された会場で、学会の規模も放射線技術学会とほぼ同じ規模だったように思えますが、医師中心の学会であることから、アフタヌーンセミナーやイブニングセミナーなどの軽食付きのセッションが多く、知識もお腹もリフレッシュできた学会でした。新型コロナウイルス感染症により学会運営に関しても大きな影響があり、殆どの学会が参加形式を Web 開催またはハイブリッド開催へ移行しています。この新しいスタイルは参加者の利便性や優れた点も多くありますが、発表が一方通行になりがちで、発表者との熱い議論をする機会が減ったことは否めないと思います。今回の学会ではライブ配信は行いましたがオンデマンド配信は行わず、会場での参加を是非行なってほしいとの大会長の強い意向での開催となり、放射線技師のセッションでも久々に多くの参加者そして質問があり、会場の様々な場所で意見交換や現状報告などを行っている方もいて、少しずつではありますが以前の学会の様子に戻ったような感じがしております。

近年の JSNET での大きな話題に、心原性の塞栓子による急性の主幹動脈閉塞への治療戦略があります。本学会放射線技師部会の生涯教育プログラム Continuing Education Program (CEP) では、「脳血栓回収術前の画像支援」というテーマで CT, MRI, AG 装置を用いた血

栓回収前に必要な画像や患者の搬入から治療開始までの時間を短くするための各モダリティでの撮影時間の短縮の工夫や、院内でのチームワーク、更に最新の AG 装置導入やハイブリッド ER での IVR-CT を用いた新たな画像診断など興味深い内容が多く、19:10 からのプログラムではありましたが、多くの放射線技師の方が参加され活発な討論が行われていました。また放射線技師シンポジウムでも AG, MRI, CT での様々な疾患における造影方法や撮影方法の工夫などが報告され、臨床ベースで多くの施設が参考になる情報を数多く紹介されていたと感じています。やはり臨床系の学会も楽しいです！

JSNET では我々診療放射線技師や看護師などのメディカルスタッフに対する金銭的サポートがあり、学会参加費が医師は 20,000 円に対しメディカルスタッフは 5000 円（年会費が医師は 15,000 円に対し 2,000 円）とお値打ちあり、更に様々な記念品が貰えます。今年度は PC ケースとスクラブ（JSNET の刺繍入り）を頂きました。スクラブは数年に 1 回記念品として配布されており、今回もお洒落なデザインのスクラブを頂きました。来年は京都で 2023 年 11 月 23 日より三日間開催されます。紅葉の時期です。昼は学会、学会後は清水寺や東福寺などの観光も良いと思いますよ。



今回の学会で頂いたスクラブ、右肩に JSNET2022 OSAKA のデザインが入っています